

仏生山まるごと動物園

～みんなで創る地域芸術祭～

代表者 北岡 優（経済学部経済学科2年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業では、仏生山地区の子供たちや地域の方々が私たち佛生山らぼプロジェクトと共に、動物オブジェを制作した。制作した動物オブジェを、仏生山地区をひとつの動物園として捉え、「仏生山まるごと動物園」と題して、町の店舗や施設の各所で展示した。今年度で5回目となる「仏生山まるごと動物園」では、これまでよりも動物オブジェの種類や数、動物オブジェを設置する場所を増やし、レベルアップを図った。各回の動物オブジェの種類、数、設置場所は以下のとおりである。

第1回（2022年度）	：10カ所、27体
第2回（2023年度）	：15カ所、41体
第3回（2024年度）	：22カ所、55体
第4回（2025年度）	：23カ所、43体
第5回（2025年度）	：22カ所、40体

第5回の「仏生山まるごと動物園」では、開園を記念して動物オブジェの写真をInstagramで投稿していただき、いいね数などで審査した上位3名の方に景品を渡すというフォトコンテストを開催し、見る楽しさだけでなく写真を撮るといった別の楽しみ方を提示し、より多くの人に関心をもっていただけるように努力した。

また、動物オブジェを置かせていただいた店舗や施設への還元として、動物オブジェを飾らせていただいた店舗・施設を載せた「第5回仏生山まるごと動物園マップ」を作成した。

このプロジェクト事業の目的は大きく分けると3つある。1つ目は、芸術を通じた世代間交流を促進することである。この目的の達成のために、動物オブジェを子供たちや大学生だけで制作するのではなく、地域の方々にもご協力いただいた。

2つ目は、多くの方々に仏生山地区を訪れてもらい、その魅力を知ってもらうことである。仏生山地区の様々な場所に子供たちや地域の方々が作った動物オブジェを設置することにより、多くの人々の関心を得ることができる。仏生山地区内外の方々に楽しんでいただくことを通じて、仏生山を盛り上げることである。

3つ目は、仏生山地区の方々に、佛生山らぼプロジェクトを知っていただくきっかけをつくることである。佛生山らぼプロジェクトを知っていただくことで、仏生山地区が

抱える世代間交流の少なさ、将来の担い手不足という課題を解決する手助けに繋がると考える。

2. 実施期間（実施日）

令和7年4月1日から 令和8年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

この事業で得られた成果は主に3つある。

1つ目の成果は、世代間交流の場を創出できたことである。動物オブジェの作成にあたって「児童デイサービスかみふうせん」や男木島の子供たちに協力していただいたり、オブジェ作成をした際も地域の大人の方々と共に作業を行ったりした。これらの活動を通じて、地域や世代を越えて交流する機会を提供できた。

2つ目の成果は、仏生山地域外の方に仏生山の魅力を知っていただけたことである。仏生山まるごと動物園と同時に開催したフォトコンテストでは、高松市やさぬき市からの参加があった。地域外でワークショップを行い、仏生山について知っていただくチャンスを増やすことができた。

3つ目の成果は、佛生山らぼプロジェクトを知っていただくきっかけとなったことである。昨年度に引き続き仏生山まるごと動物園を開催し、地域の方々から応援のお声かけをいただけたことや、イベントの参加者が増えたことから、地域の方々からの認知度が上昇していることを実感できた。地域の方々から開催を期待する声や仏生山と一緒に盛り上げたいという意見もいただくことができた。また、昨年度よりも多くのお店に協力いただき、交流の輪を広げることができて、私たちの活動が多くの方々に浸透するようになった。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、地域の方々に香川大学が取り組んでいる地域活性化の活動を知っていただくことができた。昨年度よりもご協力いただいた店舗や施設が増えたため、私たちの活動を広め、多くの方々と関わりを持つことができた。このような場面を通して、私たちのプロジェクトや、それを支える香川大学が「地域に根差した学生中心の大学」であることを、より多くの方々に知っていただくことができた。また、他プロジェクトとの交流により、仏生山地区外の子供たちと関わり、動物オブジェを作ることができた。このことからさらに、このプロジェクト事業の認知や仏生山の認知に大きな影響を与えることができた。

地域社会に与えた影響としては、閉園後に置かせていただいた店舗や施設へ行ったアンケート結果から、41.7%の店舗・施設が地域での認知度の向上に効果があったと回答した。他にも、33.3%の店舗・施設が新規顧客の獲得という効果があったと回答した。このことから、ご協力いただいた店舗や施設へ良い影響を与えることができた。

また、Yahoo!ニュースにこの活動を取り上げてご紹介いただいた。このことから、仏生山地区に興味を持っていただくきっかけを提供し、仏生山地区に訪れる人々の世代を広げるとともに人数の増加に繋げることができた。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今回の活動を通して、私たちの活動が多くの地域の方々に支えられていることを改めて実感した。仏生山地区の子供たちや大人の方々、施設や商店の方々など、多くのご協力があったからこそ活動を進めることができた。また、今年度は仏生山地区以外の方々や高校生にも動物オブジェ制作に協力していただき、さらに 22 カ所の店舗や施設の方々には動物オブジェの展示やフォトコンテストの実施にご協力いただいた。こうした地域の方々の支えへの感謝を忘れず、今後も活動を通して仏生山地区を盛り上げていきたい。

また、地域の方々と日程調整や打ち合わせを電話やメール、対面で行ったり、イベントで参加者とやり取りをしたりする中で、コミュニケーション能力を養うことができた。直接会話を交わすことで、地域の方々とつながりを実感し、活動がより楽しくなっただけでなく、地域の支えのありがたさを改めて知ることができた。さらに、地域の方々のご協力を得ながら活動を進める中で、余裕のある計画を立て、それに沿って活動を進めていくことの大切さも学んだ。

さらに、イベント開催に伴うチラシのデザインや、デザイナーとマップを制作する経験を得ることができた。

本活動を通して、地域の方々の支えの大きさを実感するとともに、コミュニケーション能力や企画運営の力など、さまざまな学びを得ることができた。これらの経験を今後の学生生活にも生かしながら、地域とのつながりを大切にし、仏生山地区の活性化に貢献できる活動を続けていきたい。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

本活動における反省点として、まずマップの納入が第 4 回の開催に間に合わなかった点が挙げられる。マップは、来場者が仏生山まるごと動物園を巡る際に活用するだけでなく、オブジェを設置させていただいた店舗への還元という目的も含め、当初から制作を決定していた。しかし、デザイナーとの連絡調整が円滑に進まなかったことにより完成が遅れてしまった。今後はスケジュール管理を徹底し、関係者との連携をより密にすることで、計画的に進行していきたい。

次に、フォトコンテストの参加人数が少なかった点も課題である。特に、仏生山地区に住む地元住民の参加がほとんど見られなかったことが大きな要因であると考えられる。このことから、フォトコンテストという形式自体が地域住民にとって参加しづらいものであった可能性があると考え、今後は、地域の人々がより気軽に参加できる内容や仕組みへと改善していく必要がある。

一方で、フォトコンテストにはさぬき市からの参加者もあり、市外の方にも仏生山まると動物園を楽しんでいただけた点は大きな成果である。これにより、仏生山地区の魅力を広く発信する機会となり、新たな来訪者の獲得にもつながった。

来年度に向けては、オブジェの設置店舗数をさらに増やし、イベント規模の拡大を図りたい。それにより、地域全体の回遊性を高めるとともに、より多くの人々に仏生山地区の魅力を体感してもらえる取り組みへと発展させていきたい。

7. 実施メンバー

代表者	北岡 優（経済学部2年）		
構成員	吉中 貴哉（農学研究科M1年）	多田 実咲（法学部2年）	
	三井 美乃（創造工学部4年）	瀬尾 凜花（法学部2年）	
	宇野 早織（経済学部3年）	寺崎 初花（創造工学部2年）	
	植条 美祐紀（経済学部3年）	山本 大雅（創造工学部2年）	
	葭本 和波（教育学部3年）	松木 香澄（法学部1年）	
	金山 壮一朗（経済学部2年）	松田 響（法学部1年）	
	中野 雅子（経済学部2年）	石牟礼 あいみ（経済学部1年）	
	丸山 航大（法学部2年）	大野 咲良（経済学部1年）	
	森山 紘羽（法学部2年）	井上 栞利（創造工学部1年）	
	谷 実咲（法学部2年）	野中 美里（創造工学部1年）	

8. 執行経費内訳書

配分予算額		199,682円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備考
交通費			14,260	
フェルトシート	1	1,903	1,903	
木工用ボンド	1	286	286	
A4フライヤーチラシ	1,000	4.87	4,870	
A4フライヤーチラシ	1,000	3.49	3,490	
佛生山マップ デザイン料	1	66,000	66,000	
A4二つ折りパンフレット	1,000	21.98	21,980	
スクエアクリップボールペン	100	550	55,000	
合 計			167,789	